

# トホクのソラマメ栽培方法

発芽適温：15～20℃ 生育適温：15～20℃  
 土壌酸度：pH6.5～7.0 連作障害；3～4年あける

## 1. 作物特性

ソラマメは野菜の中でもアブラムシの発生がもっとも多い作物の一つです。アブラムシ防除用のマルチを用いて、また発芽や植えつけ後にアブラムシ防除用の農薬を適切に使用するのも効果的です。ソラマメは小さい苗の時期は耐寒性が強いのですが、植物体が大きくなってからの低温には弱く、軽い霜でも障害が出る場合があります。栽培地の気象環境に合わせてタネまき時期を決めましょう。

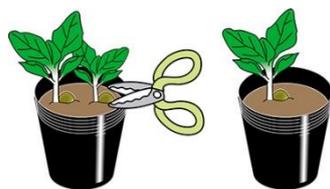
## 2. タネまき

ソラマメはタネまき直後に鳥による食害が多いのでポットで苗を作り、植えつける方法をおすすめします。直径10～12cmのポットでタネの下にあるオハグロ(黒いスジ)の部分を斜め下に向けて差し込むようにまき、タネの上部を土の上に少し出します。



ソラマメは苗を大きく育てすぎると、寒さに対して弱くなる性質があります。早まきは避け適期にタネをまきます。

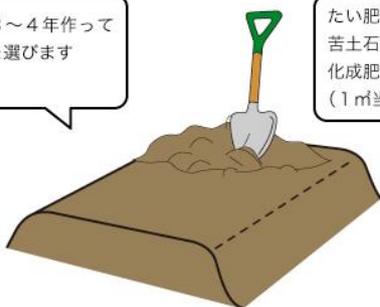
本葉2～3枚の頃、生育のよい株を1本残して間引きます。間引きにはハサミを使い、根元を切りとり行います。



## 3. 植えつけ

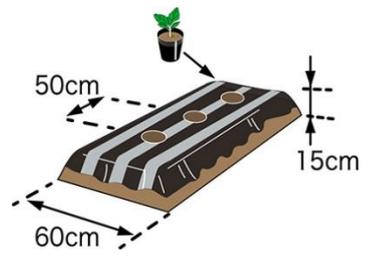
ソラマメは連作障害のでる作物ですから、3～4年間ソラマメや他のマメ類を栽培したことのない畑を準備します。

豆類を3～4年作っていない畑を選びます



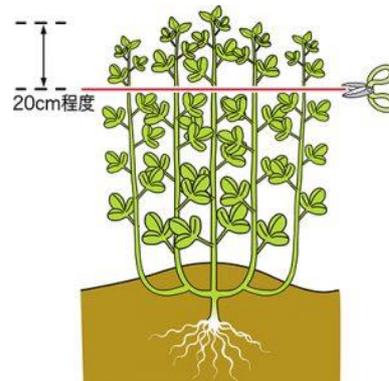
たい肥 2kg  
 苦土石灰 120g  
 化成肥料 50g  
 (1㎡当たり)

本葉2～3枚の頃が植えつけの適期です。ソラマメの場合はアブラムシの飛来をできるだけ少なくするためにシルバーラインの入った黒マルチが特におすすめです。



## 4. 栽培管理

寒さが厳しい地域では落ち葉やワラを株のまわりに敷いて霜よけをし、特に地際部の茎を寒さから守るように敷きます。側枝(わき芽)が20～30cm程度に伸び始めてきたら、生育が良く強い側枝(わき芽)を6本程度残して、それ以外は取り除きます。



草丈が1.5mくらいになったら、莢の肥大促進のために先端を摘芯します。また弱い枝も切り取れば、しっかりと実が入った莢を収穫できます。また芯先に寄生するアブラムシの防除にもつながります。

花が終わり、莢が肥大してきたら株元に化成肥料を1株あたり40gの追肥をします。

## 5. 収穫

上を向いていた莢が下に垂れてきて背筋が黒褐色になり、光沢が出てきたら頃が収穫適期です。ハサミなどでていねいに収穫しましょう。

